

## 推薦調書（アイデア部門）

推薦都道府県

宮崎県

地方公共団体名	延岡市		
アイデア名称	安心と温もりの市民参加型 GIS クラウドサービス構築事業 (3D都市モデルを活用した都市マネジメント)		
連携自治体、企業、団体等	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 等		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的な内容）	(種類)	①	(左記が①の場合の分野) 医療、交通、観光、防災
	<p><b>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</b></p> <p>○延岡市が、市民参加型の「GISクラウドサービス」を導入し、①延岡市ホームページにおける都市計画情報・防災情報等のまちづくりに重要な情報発信力の強化、②平常時・災害時の両方に活用できる双方向型の市民通報サービスの導入による対話の市政の基盤充実、③まちづくりのデジタル基盤として、各種情報を正確に反映するための最新の空間情報の作成に取り組む。</p> <p>○このことで、市民や企業がオープンに利活用できる公開型GISを市のホームページ上で公開するとともに、市民通報サービスによる情報を即座に反映し、各部署での日常業務での活用を行う。また、当該GISクラウドサービスを活用した3D都市モデルの構築により、「空飛ぶクルマ」の運航シミュレーションなど、様々な分野での活用を行う。</p> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <p>○荒ぶる自然災害やコロナ禍での新しい生活様式、デジタル化の進展等の動向は、市民の生活や働き方等に大きな影響を与えており、これまで以上に市民一人ひとりが自ら考え、生活や働き方を選び、行動していく時代をもたらしていると考えられる。このことから、デジタル技術の活用により、市民や企業がより便利に行政情報（都市基盤施設情報や防災情報等）を利活用できる環境整備や市民生活や産業等にとっての土台となる各種インフラや情報提供の充実を図ることが課題となっている。</p> <p><b>【解決する課題の具体的な内容】</b></p> <p>○「平常時から利用されるシステムでなければ非常時には役に立たない」ことを念頭に、都市基盤施設情報や防災情報等の行政情報の日常的な利活用を図り、非常時にも柔軟に対応できるよう備えることにより、安心・安全に暮らすことができ、幸せを実感できるまちづくりを推進する。</p> <p>○市街地開発に関する情報発信や既存市街地の住環境・防災面の改善と利用促進により、持続可能な土地利用の推進が図られる。</p> <p>○最新の航空写真撮影により地形図を作成し、正確な行政情報を反映した空間情報を公開することで、紙媒体による古い地形図等からの改善が図られる。</p> <p>○国が進める3D都市モデル整備、活用、オープンデータ化にも対応することができる。</p> <p>○精度の高い被災シミュレーションにより、市民が災害時に取るべき行動の検証や市民意識の向上、防災教育に資する取組の推進が図られる。</p>		

	<p>○当該GISクラウドサービスを活用した3D都市モデルの構築により、本市の救急救命率や防災力を高めるため、将来の導入を検討している「空飛ぶクルマ」のフライト経路の検討やエネルギー管理（脱炭素化）の検討など、都市マネジメントにおいて活用することで、より適正・効果的な地域課題の解決を図る。</p> <p>○市民行動データや交通サービス、交通需要等に関するデータを集積し、地図上で可視化することで、課題を明確化し、公共交通網の最適化の検討に活用できる。</p>																		
デジタルの活用により目指す成果（数値）	<p><b>【取組が目指すアウトプット】</b></p> <table border="1" data-bbox="411 479 1404 622"> <tr> <td colspan="3">図面照会の窓口来訪者の低減率（参考：窓口受付件数 月平均90件）</td> </tr> <tr> <td>令和4年度末</td> <td>令和5年度末</td> <td>令和6年度末</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p><b>【取組が目指すアウトプット】</b></p> <table border="1" data-bbox="411 667 1404 808"> <tr> <td colspan="3">オープンデータ公開件数</td> </tr> <tr> <td>令和4年度末</td> <td>令和5年度末</td> <td>令和6年度末</td> </tr> <tr> <td>15件</td> <td>25件</td> <td>35件</td> </tr> </table>	図面照会の窓口来訪者の低減率（参考：窓口受付件数 月平均90件）			令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	0%	20%	30%	オープンデータ公開件数			令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	15件	25件	35件
図面照会の窓口来訪者の低減率（参考：窓口受付件数 月平均90件）																			
令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末																	
0%	20%	30%																	
オープンデータ公開件数																			
令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末																	
15件	25件	35件																	
本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<p>○本アイデアにあたっては、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科等の民間団体との連携によるオープンデータの分析や活用、また、中高生をはじめとした延岡市民によるワークショップの実施等の市民参加の促進に取り組むなどの創意工夫を行っている。</p> <p>○公開型GISや市民通報サービスの活用促進により、地図を通して様々な政策や市の姿を知ってもらい、市政に対する関心度を高め、日常的な政策提言の土壌が醸成される。</p> <p>○ハザード情報を発信することで、非常時にも混乱することなく柔軟な対応ができるよう、日常的な利用を促進することで住民の防災意識が高められる。</p> <p>○双方向型の市民通報サービスの導入により、リアルタイムに、市民からの道路破損箇所等に関する通報が受けられ、迅速な対応が可能となる。</p> <p>○災害発生時には、市民通報サービスによる情報を、迅速な被災状況の全容把握や早期の復旧計画に活用する。</p> <p>○APPLIC（全国地域情報化推進協会）が進める地域情報プラットフォームに準拠しており、様々なシステムとの円滑な連携を可能とするとともに、国土交通省が進めるプロジェクトPLATEAUとの互換性を担保した3D都市モデルを整備することで、Society5.0社会に向けた様々な先進技術を反映するデジタル基盤の一つとして活用可能とする。</p> <p>※慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科未来社会共創イノベーション研究室との連携により、2025年の実用化に向けた取組が進められている「空飛ぶクルマ」のフライト経路の検討やエネルギー管理（脱炭素化）の検討にも活用を予定している。</p>																		
今後の展望	2025年の実用化に向けた取組が進められている「空飛ぶクルマ」のフライト経路の検討やエネルギー管理（脱炭素化）等の検討に活用を予定している。																		

